

# Maruka News

2023  
JUL  
No.  
706  
マルカニュース

2023年7月5日発行  
編集・発行 / 株式会社マルカ  
<http://www.maruka.co.jp>  
〒540-0024 大阪市中央区南新町1-2-10  
TEL.06-6450-6823



今号に掲載した皆さんの所属は、2023年6月30日現在のものです。  
本誌情報の無断転載・複写を禁じます。本誌は、個人情報や社内情報を含むため、取扱いには十分注意をお願いします。

マルカニュース No.706



マルカ



## 社長訓示

### 【大型投資】

我々を取り巻く環境は、5月8日より新型コロナの感染症法上の分類が「5類」に移行し、いよいよポストコロナに向けて経済活動が本格化してきました。帝国データバンクが実施した設備投資に関する企業の意識調査によると、2023年度に設備投資を行う予定（計画）が「ある」企業は60.5%で、コロナ前の2019年の水準62.3%に近づきつつあるとの結果です。製造業ではポストコロナに向けて、これまで先送りしてきた既存設備の代替に加えて、EV関連の事業拡大に伴う生産能力の拡大や新技術、省エネ省人投資の拡大が見込まれるとレポートしています。

実際には、半導体関連を中心に工場設立の大型設備投資計画が数多く発表されており、主なものでもラビダスの北海道で5兆円、キオクシアが岩手県で1兆円規模、TSMCが熊本県で8,000億円規模、三菱電機が熊本県で2,600億円規模、JX金属が茨城県で2,000億円規模、富士電機が青森県で1,900億円規模など、サプライチェーン対策のための国内投資促進という国策の後押しもあり、設備の国内回帰が顕著で今後も続いていくものと思われる。

大型設備案件は、いかに早く情報をキャッチするかが受注の決め手です。「5類移行」から対面での営業機会を増やすことで、投資情報をキャッチする、投資内容の仔細を聞き出すために、ユーザーの各層に対して組織的にアプローチをかけることが重要です。些細な情報でも、部内だけでなく、本部内、更にはグループ内で情報共有を促進することで、多様な意見を出し合い他社に先んじた「Unique Solutions」の売込みを徹底して、他社との差異化（マルカのUnique性）を図っていきましょう。

### 【P.D.C.A】

日本経済はコロナの「5類移行」で再び成長軌道に乗ったと思います。企業業績は2023年3月期決算企業のうち1299社の業績（最終利益）を見てみると、707社（54.4%）が増益で、391社（30.1%）が過去最高だったそうです。翻ってマルカの業績はどうでしょうか。また、各部門を独立した会社に見たてたとしたら、果たして成長していると言えるでしょうか。

P.D.C.Aをしっかりと実施していれば、実績・成果は間違いなく上がると言われています。従って、実績が上がっていない部門は、P.D.C.Aが形式的に、つまりただリストの項目を見直しているだけで終わっているのではないのでしょうか。

ジャパネットたかたの創業者高田明さんが興味深いことを述べています。個人でも企業でも課題を前にしたならば、まずは自分が今しなければならぬことを正確に把握するところ

から始めるべきです。

例えば、モノが売れないならば、なぜ売れないか、その理由＝ボトルネックをきちんと把握すべきです。その際に重要なことは、自己評価だけでなく、販売先からの評価を見極めるべきです。相手の立場にたって考えないと、本当のボトルネックは見つかりません。ボトルネックが見えてきたら課題に優先順位を付けた上で、まず取り組むべき問題に向かって集中して全力で臨むことです。

このとき、私は「4つのボックス」を用意します。1つ目は「捨てるボックス」、2つ目は「残すボックス」、3つ目は「変えるボックス」、そして4つ目が「加えるボックス」です。

例えば企業では経営資源には限りがあるから、何かを加えるには、それだけではだめで、同時に何かを捨てなければならぬはずで、課題を前に全てをそれまで通りに残すことができない以上、何を变えるのかの見極めが大切になります。「4つのボックス」をバラバラに捉えるのではなく、関連付けながら考えることが重要になります。

この話を聞くにつけ、これこそがP.D.C.Aの神髄だと思います。ただ漠然と取り組むのではなく、まず、状況把握をしっかりと実施しないことにはものごとは前には進まないということだと思います。肝に銘じたいと思います。

### 【当事者意識を持つ】

本来あるべき姿に変更しなければならないことが放置されている事案があります。特に公的機関に提出する書類は慎重を期し、複数による定期的な確認が必要です。

自分の担当ではない場合、内容の齟齬を認識していながら、わかっているながら放置される場合があります。担当であって従来通りしておけば、何らどこからも指摘がなく無難に処理ができることもあります。自分を変更しなくても、何ら変わりがなければ今まで通りの処理をすれば楽であるから。

間違っていたり、事実と違うことをわかっているながら、指摘もせず、何の行動も起こさないのは当事者意識がないためです。ましてや、間違っていることに違和感さえも感じないのは、大変危険な兆候です。当事者意識のない社員が多い会社は危険です。そのうち誰かがやるはずだから、自分がやらなくても大丈夫。また、間違いに気づいて担当者に言ったことで、仕事が終わったと思う人も多いのは事実です。これもある意味で無責任で当事者意識のなさの表れです。

粗さがしでなく、たとえ自分の分野でなくても、いろいろな問題が大きくなる前にそれが是正をされるように当事者意識を持って行動することがいかに大切かです。当事者意識を持てば、結果として情報が共有され、業務が改善され、無駄な

業務は減るはずで。

### 【ワークライフバランス】

ワークライフバランスとは、仕事と生活両立することであり、自分らしい働き方を実現させることと密接にかかわっています。最近の就職活動をする学生の関心ごとで上位に来るのはワークライフ balan であります。実際、就職希望者の学生との面接においても、学生から頻りに質問がでます。

それに関してここ数年で一番法律が改正されているのは、育児休業法をはじめ働き方改革関連の法律ではないかと感じます。少し前にウエルビーイングのことを記しましたが、健康で幸せを感じる社員が働く会社は、業務の効率が良く成長するのは間違いがありません。会社が働き方を支援する体制は日々整いつつあるのは間違いありません。

すべての社員が改正される法律の趣旨を即座に理解し実践できれば良いのですが、現有人事制度や人事体系の中では変化に対応しきれない部分もあります。働き方改革により、従来の日本型雇用制度は変化します。管理職はよくその変化を認識しなければなりません。変えるべきところは変えていかねばなりません。

人事院総裁の川本氏は、増加する育休を単なる労働投資のマイナスと考えるべきではなく、1年以上の育休は留学くらいの価値があるかもしれない、育休に携わる人が多くなるほど日本の将来は明るくなる、とおっしゃっています。停滞している日本が少しでも元気になればと願います。

健康で豊かな生活のための時間が確保されるのが理想ですが、自分に置き換えてみると、できていないことが残念であります。

### 【おわりに】

VUCAの時代はますます深まっています。その中でわれわれが変わらず目指すものは、お客様から「その手があつたか」という感動を引き出すことです。

ちょうど2022年のフルサト・マルカホールディングスの統合報告書が出来上がりました。皆さんに必ず目を通していただきたい。われわれが目指しているもの、中期経営計画を基に経営人が考えていること、そこからどのようにUNISOLを発展させていくのが凝縮されています。

2023年度も7月から後半に入ります。年初に立てた計画を見直す時期でもあります。上期課題が出た部門は早期に改善策を練り、今実行し年度計画以上を達成するように着手しましょう。





# MOBAC SHOWに初出展 しました



マルカ展示  
ブース

フードシステムソリューション部が、MOBAC SHOW 2023(第28回国際製パン製菓関連産業展)に初出展しました。

MOBAC SHOW 2023は、2023年2月28日(火)から3月3日(金)の4日間にわたり、千葉幕張メッセで開催され、4日間の来場者数は、2年前の前回に比べ、1万人以上増加し33,855人に上りました。

今回、フードシステムソリューション部は、グループ会社であるアルプラス株式会社(旧社名・株式会社ミヤザワ)および株式会社管製作所と共同出展し、省人化をテーマに株式会社坂井機械製作所の充填機と、株式会社クリエイションデバイスの反転機も出展しました。

アルプラスからは、サンドイッチ用丸刃スライサーと、超音波切断機の新型を出展しました。3斤パンから1枚でも多くパンを切断する新機構で、ダウンサイジングはブースご来訪者からも好反応をいただきました。ケーキ、和菓子用超音波マルチスライサーでは、お客様が持ち込まれた材料のテストカットも実施しました。

管製作所からは、トレー供給機を坂井機械製作所の充填機との連動仕様にて展示しました。トレー供給機は容器サイズに合わせて任意に調整が可能で、キャスター付きで移動も簡単です。充填機は、生クリームや餡子等粘性の高い材料の定量充填に向けており、トレー供給機と連動する事で省人化が図れます。また、クリ

エイションデバイス製の反転機はレトルトパウチ用で、サンプルを使用しデモ運転を行いました。反転したい製品を持ち込まれたお客様もおられ、デモ運転を実施し実際の動作を確認しました。

昨今の原材料価格の高騰など不安材料もある中、外出機会の増加を見据えた各企業様の熱を感じる事が出来た展示会でした。

最後になりましたが、今回の出展にあたり、アルプラス、管製作所、坂井機械製作所、クリエイションデバイスの各社様の多大なるご協力と、ご対応いただいた皆様に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(フードシステムソリューション部 森下 周平 記)



アルプラス  
サンドイッチ用  
丸刃スライサー



アルプラス  
超音波スライサー



管製作所  
トレー供給機  
&  
坂井機械製作所  
充填機



クリエイション  
デバイス  
反転機



# マルカ・タイ 設立35周年記念 および新社屋記念祝賀会

35<sup>th</sup>



新社屋前に全員集合

マルカ・タイは2023年2月23日に、設立35周年および事務所移転を記念し、祝賀会を開催しました。当日は、日ごろからお世話になっている仕入先様から50名を超える方々にご参加いただき、祝賀会では、マルカが販売する商品の「すしロボット」が握る寿司や、天ぷら、そば、赤飯等の日本食をご提供し、和やかな雰囲気の中、会は滞りなく執り行われました。

式典は、マルカ・タイの佐野部長が司会を務め、最初にマルカの竹下会長から、「会社設立35周年を迎えることができたのは、ひとえに仕入先の皆様のご支援・ご指導と、マルカ・タイ従業員の皆さんの努力の賜物であることと、ここに改めて感謝申し上げます。」との祝辞をいただき、マルカ・タイの坂口社長に記念プレートが贈呈されました。

次に、仕入先様を代表してコマツ産機タイランドの杉浦社長様から、これまでのマルカとの取り組みや、将来も協力し支え合うと力強いお言葉をいただきました。また、マルカ・タイで勤続35周年を迎えたWatcharapongさんに記念品を贈呈し、ご挨拶をいただきました。

個人的な感想を述べさせていただきますと、私は祝賀パーティーが開催される前の週にマルカ・タイに赴任しましたが、沢山の仕入先様にご参加いただいている様子を見て、今までこれほど大勢の方々や、企業に支えられてきたからこそマルカ・タイがあるのだと実感いたしました。また、会社設立からは35周年ですが、営業所の設置からは約65年経っています。現在のマルカ・タイは、まだ日系企業が少なく、インフラが整っていない時代から、多くの仕入先様と共に先人達が少しずつ作り上げてきたのだと分かり、赴任した責任感を感じました。仕入先様同士でも、私個人としても、祝賀会での出会いから様々な新しいお話をすることができ、単なる祝賀会で終わるのではなく、各社の今後の繁栄につながる事ができる機会になったのではないかと思います。

(マルカ・タイ 白井真之 記)



マルカ・タイ 新社屋



祝辞を述べる竹下会長



Watcharapongさんに記念品を贈呈



竹下会長からマルカ・タイ坂口社長に記念プレート贈呈



懇談中



プレート前で記念撮影



# ソノルカエンジニアリング株式会社 創立50周年記念式典



マルカから、竹下会長、飯田社長、コマツ産機様から、長島取締役を来賓にお迎えし、従業員合わせて総勢42名が参加し、和洋折衷のコース料理を楽しみました。

式典は、冒頭に諏訪社長より挨拶を行い、引き続きご来賓の竹下会長、長島取締役より祝辞を頂戴しました。

懇親会は、飯田社長の乾杯のご発声で開会され、各従業員への記念品の贈呈式、永年勤続者への表彰(お祝い)やビンゴゲームを行い、最後に谷口会長の挨拶で式典を締めくくりました。谷口会長の挨拶を聞き、我々社員一同、今後更にソノルカが発展すべく日々精進して参りたいと感じました。

最後になりますが、今回の式典に際し、マルカ様を含め、各社よりご祝電やお祝いを多数頂戴致しました。この場をお借りして御礼申し上げます。



ソノルカエンジニアリング・諏訪社長挨拶  
「ソノルカエンジニアリングがここまで成長発展して来られたのは、協会社様、ユーザー様、また、これまでのソノルカの歴史を作り上げたOBの方々や今回式典に出席されている現役従業員のお陰です。これからの歴史を作っていくのはここにいる我々の役目です。」



祝辞を述べる竹下会長



飯田社長 乾杯のご発声



ソノルカエンジニアリング・谷口会長 中締め挨拶  
「ソノルカをさらに発展させる為に、より一層、他社に負けない装置の開発に力を入れ、みんなで力をあわせて成長していきましょう。」



ソノルカエンジニアリング株式会社は本年、創立50周年を迎えました。会社にとって大きな節目である50周年を社員全員でお祝いしようと、みんなのスケジュールを調整し、ようやく4月15日(土)に大阪新阪急ホテルで記念式典を行うことができました。





## 2023年12月期 第1四半期決算発表を行いました

フルサト・マルカホールディングス株式会社の第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は43,781百万円と前年同期比4,962百万円増(12.8%増)となりました。損益面では、原材料価格やエネルギー価格等の高騰があったことに加え、営業活動の正常化に伴う販管費増加の影響もありましたが、増収効果により、営業利益は1,767百万円と前年同期比298百万円増(20.3%増)となりました。経常利益は1,863百万円と前年同期比77百万円増(4.4%増)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,237百万円と前年同期比77百万円増(6.7%増)となりました。

### 2023年12月期 第1四半期 連結決算サマリー

売上高	43,781百万円	前年同期比:112.8%
営業利益	1,767百万円	前年同期比:120.3%
経常利益	1,863百万円	前年同期比:104.4%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,237百万円	前年同期比:106.7%



## マルカの動き

- 4/ 1:ミヤザワ ARPLUS(アルプラス)に社名変更
- 4/ 3:2023年度新入社員入社式
- 4/15:ソノルカエンジニアリング 創立50周年記念式典
- 4/18:エムタス・レフ株式会社設立
- 5/ 9:フルサト・マルカHD 第1四半期決算発表



入社式



アルプラス  
本社



## 合併会社設立のお知らせ

マルカと、株式会社マツハシ冷熱(長野県長野市)は、2023年4月18日付で、エムタス・レフ株式会社を設立し、CO<sub>2</sub>冷凍機輸入販売事業に本格参入しました。

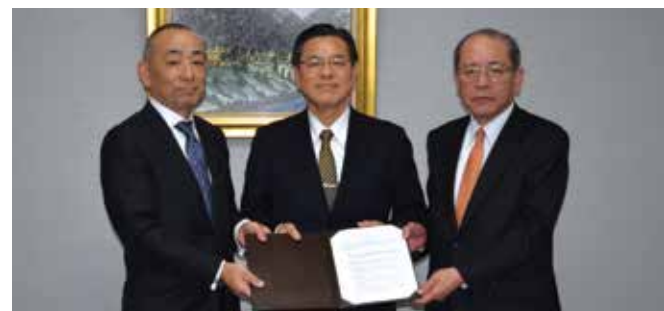
新会社は欧州大手冷凍機メーカーであるSCM Frigo社製品とともに、SCM Frigo社の親会社で世界的な冷熱業者でもあるBeijer Refグループ製品も取扱います。

今後、ゼロカーボンの潮流を踏まえ、自然由来の冷媒を使用するCO<sub>2</sub>冷凍機に加え、環境先進国である欧州の環境感応が高い製品を顧客にお届けし、日本における環境問題の解消に取り組んで参ります。

【調印式】



株式会社マツハシ冷熱 上島社長と飯田社長



左はエムタス・レフ株式会社 後呂会長

## 東京フットサル部マルセロナが再始動! フットサル大会で準優勝しました

東京フットサル部の「マルセロナ」が活動を再開し、3月にすみだパークプレイスで開催されたフットサル大会で準優勝しました。

我々「マルセロナ」は、東京支社、静岡支社を中心としたサッカーが好きな社員誰でも参加自由のオープンなチームです。2カ月に1回、大会前に集まり過酷なトレーニングに励み、さらに上のレベルを目指し、一つでも勝ち星を増やしていきたいです。Vamos!

(東京建設機械部 安藤涼祐 記)

